

東洋大学ライフデザイン学部 健康スポーツ学科ニュースレター第3号 2013年3月25日発行

著者に聞く（紙上インタビュー）

石井：今回は本学科所属で比較宗教学がご専門の菊地章太先生に、最近話題になっている『妖怪学の祖 井上円了』（角川選書）について、その読みどころを語っていただこうと思います。なお、先生の御著書は先頃（3月17日）朝日新聞に書評が掲載されました。
(<http://book.asahi.com/reviews/reviewer/2013031000005.html>) それでは、お願いいたします。

菊地：こんにちは。私はライフデザイン学部で教養科目の「哲学」や「妖怪学」を担当しています。東洋大学を創立した井上円了が、今から百二十年前に教えていた科目です。この本は、哲学者の円了先生がなぜ妖怪学を始めたのかを明らかにしようとしたものです。それにしても、大学で妖怪を研究するなんて、へんだと思いませんか？

石井：おもしろそうだけど、たしかにへんな気がします。

菊地：みんなそう言います。ところで石井先生、ドラキュラが苦手なものは何でしたっけ？

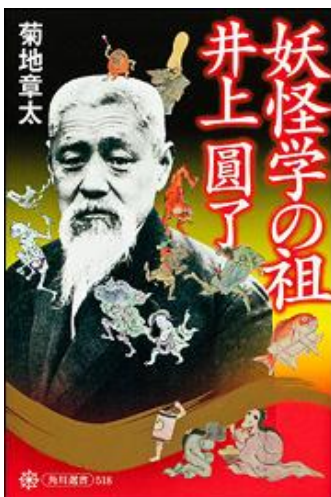
石井：十字架とニンニクでしょ？

菊地：あと、鏡にも弱いんです。ドラキュラは鏡に映らない。鏡には真実のものを映す不思議な力が宿っていると、昔の人々は考えたからです。

石井：そういえば、映画の『ハリーポッター 賢者の石』にも、心の奥で望んでいるものを映す鏡というのが出てきましたね。

菊地：そうでしたね。霊力をもった鏡はギリシア神話やゲルマン神話にも出てきます。それから、十字架はキリスト教のシンボルですし、ニンニクのような匂いの強烈な植物は、世界各地で魔よけに用いられています。

石井：なるほど。私の専門のスポーツ人類学をはじめとする文化人類学には、世界のいろいろな民族が用いる魔よけを研究する領域もあります。



菊地：はい。ですから、妖怪について知るためには、神話学や文化人類学や宗教学など多様な学問を学ぶことが必要になります。映画や小説から学ぶこともたくさんあります。

石井：まさに大学の教養科目にぴったりですね。

菊地：そうなんです！ 妖怪という切り口を通じて人間の文化を幅広く学ぶのが妖怪学の目標の一つです。円了先生も心理学や自然科学の成果をふんだんに取り入れて妖怪を研究しました。哲学がさまざまな学問の基礎であるなら、妖怪学はさまざまな学問の応用と言っていいと思います。

石井：哲学者の井上円了が妖怪学の祖になった理由もそこにありそうですね。

菊地：ありがとうございます。それがこの本で一番言いたかったことなんです。学生のみならず、大学で自分のめざす専門の科目をしっかり学び、さらに哲学や妖怪学などの教養科目を通じて、社会人としての知識力や考え方の幅を身につけてください。

石井：ありがとうございました。

※菊地章太先生のプロフィールについては、http://www.toyo.ac.jp/hld/dspo/professor_j.htmlをご参照下さい。